

エビデンスとプラクティスの両立 1

手指衛生の習慣化を目指そう ～効果が実感できる質改善への戦略～

手指衛生は感染対策の基本かつ効果的な方法であり、医療施設で働く人全員が行わなければならないことは認識されてきている。しかし、手指衛生が習慣化されるまでには至らず、感染管理担当者は、日々、手指衛生の質改善に向け努力を重ねている。

教育やキャンペーン、手指衛生環境の整備、手指消毒剤の使用量や直接観察による手指衛生実施状況の確認、それら活動のフィードバック等を継続することにより手指衛生の遵守率の増加や感染率の低下などの効果が得られている施設も増えていると思われる。

一方、ある一定の効果はあったものの伸び悩んでいる、手指衛生の遵守向上はしたが感染率には必ずしもつながらない、看護職以外の職種の協力が得にくい等、手指衛生の質改善に向けた悩みは尽きない。

そこで、手指衛生質改善に効果があった事例から、ちょっとした工夫、できそうではなかった取り組み、ICN の地道な努力等を紹介、ディスカッションすることで、手指衛生の質改善に向けた取り組みを継続していく上での参考にしたいと考える。